

滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会だより

発行／彦根市馬場一丁目1-1 滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会 発行責任者／戸田 茂

URL : <https://www.econ.shiga-u.ac.jp/supporters.html>

目次	経済学部の(豊かな海)を活かすために・・・1～2	国際交流・・・・・・・・・・4～5
	データサイエンス学部の教育研究について・・・2～3	ゼミナール紹介・・・・・・・・5～7
	学生活動だより・・・・・・・・3～4	資格取得等報奨制度について・・・・7
		報奨金給付者の声・・・・・・・・8

経済学部の(豊かな海)を活かすために

経済学部長 田中英明



本学部は5学科からなる多種多様な科目群と、学科を越えた柔軟な教育体制によって、他には類を見ない学際的・総合的な学習の機会を提供しています。そのあまりに広大な海の広さ・深さに溺れてしまうのも、またそれを恐れて寄り道もせず最短路を突き進むのももったいない話です。そこで、この豊かな海を活かすためのガイドとなる制度や、様々な冒険のための仕掛けを、それぞれの担当の教員から紹介します。

① 「学習類型」ならびに「データサイエンス副専攻」

平成29年度以降に入学した学生には、「学習類型」と呼ばれる新しい制度が適用されます。これは、3年次の春学期から、学生各自が自身の学修したい科目や分野を考えて、また所属を希望する専門演習(ゼミ)の教員による推奨も念頭におきながら、8つのコースから1つを選択するとするタイプです。経済学を中心とする類型、経営学を中心とする類

型、法学・政治学と経済学を交錯させた類型、人文科学を中心にした類型などがあり、学生にとっても、自身が本当に志す分野・領域を入学後にじっくりと考えることが可能になります。

また、「データサイエンス副専攻(政策・ビジネス革新創出人材プログラム)」も用意されています。これは、一定の要件を充たした経済学部生に、データサイエンス学部が提供する専門科目を30単位まで修得することを認める制度です。このプログラムのねらいは、様々な課題に対して、数理的分析に基づき科学的にアプローチできる人材の育成です。経済学の素養と思考に加え、数理的な分析力を備えた人材は、今後多くの分野で必要とされるはずで

「学習類型」も「データサイエンス副専攻」も、まさにこれから実際に運用されるものであり、大きな期待が寄せられています。経済学部生の皆さんには、これらの制度を自身の学修の指針として、あるいは伴走役として積極的に活用されるよう期待します。

(宗野隆俊 副学部長)

② 「グローバル」な挑戦のための仕組み

本学部では、多くの学生が民間企業や官公庁等に就職します。企業はもちろんのこと、近年では官公庁でもグローバルな人材が求められるようになってきました。本学部でも、もちろんそれを意識した教育をすすめています。

たとえば本年度は、1回生から3

回生までの希望者を対象に、夏季休業の期間にTOEIC特別講習を実施しました。TOEIC教育のスペシャリストを講師として招聘し、前半2日間、後半2日間の集中講座で、レベル別に、10人以下の少人数で学習するプログラムです。TOEICで課されているリーディングやリスニングだけでなく、スピーキング能力の向上も視野に入れたトレーニングを行い、終了後には、実力だめしとしてTOEIC®試験も開催しました。11月からは週1回3時間(全7回)の形式で第2弾を実施中です。

また「グローバル・インターナショナルシップ2018夏」と題して、アメリカのシアトルにて、グローバルリーダーを育成する約3週間のプログラムも実施しました。ホームステイしながら英語での講義やディスカッション、インターナショナルシップを体験し、参加学生たちは一回り成長したようです。

そのほかにも、「自主企画海外体験・研修」という科目も導入してお



シアトル研修に参加した学生の皆さん

ります。これは学生がそれぞれのニーズと目的に応じて学外の海外体験を選び、計画の立案・実施後の振り返り等の所定の条件を満たすことで単位を修得できる仕組みです。

経済学部の英語で実施される専門科目の講義も増えてきたので、それに挑戦するのもよいでしょう。また、滋賀大学の主催する各国の語学・文化研修、交換留学などもあります。学生のみなさんの積極的なチャレンジを期待しています。

(弘中史子 国際教育推進委員長)

③「プロジェクト科目」などの新しい学びの場

本学部の魅力のひとつに、プロジェクト科目があります。これは、これまでの大学における「座学」を中心とした学びとは異なり、アクティブラーニングやプロジェクト・ベースド・ラーニングと呼ばれる新しい学びを実践する科目となっています。その特徴は、講義の中で、現実の企業や行政が抱える課題を共有・発見し、企業や大学と共同でこれらを解決しようと試みる点にあります。

具体的には、本学部が立地する彦根市を代表する地場産業のひとつに彦根仏壇産業があります。これら地場産業の伝統工芸技術を学生という若者の視点から売れる商品に変えるための提言を行い、また伝統工芸の価値を若い世代に伝えていくために、七曲がりフェスタというお祭りを彦根仏壇産業の方々と一緒になって企画し、実施するわけです。

また、彦根市の議会や彦根商工会議所と共同で、彦根市が抱える問題を学生と共有し、課題解決に向けて提言する、あるいは「MEXCO中日本」と彦根を代表する老舗和菓子店「いと重菓舗」と共同で、学生の感覚を取り入れた新商品を開発する、更には滋賀大学の留学生と共同で異文化理解を深める等、多種多様なプロジェクト科目が開講されています。

これらの科目は学生の問題発見や問題解決能力を育むだけでなく、座学で学んだ経済学・経営学を含む様々な社会科学の成果を現実に応用する方法を学び、社会を生き抜くために必要とされる様々な価値観を持つ人々と共同的な問題解決・価値創造活動を実践する能力を習得する新しい学びの場を提供しています。

(柴田淳郎 地域連携教育推進委員長)



データサイエンス学部長 竹村 彰 通



データサイエンス学部も開設以来2年目には1期生が2回生となりまして、ここで

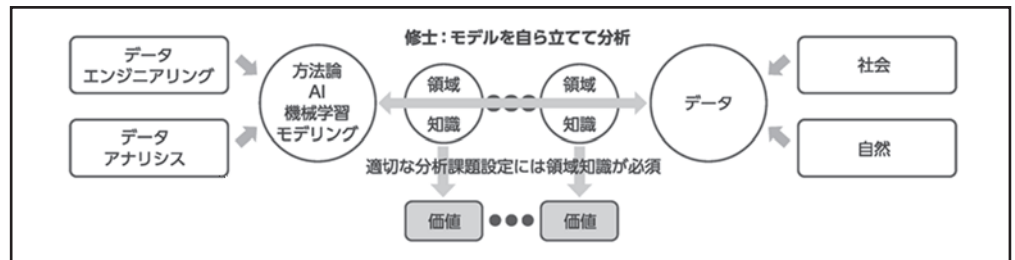
イエンス学部の最近の動きのうち、2回生のインターンシップ活動と、大学院データサイエンス研究科修士課程の開設について述べます。

データサイエンス学部では、夏季休業等を利用して、企業等を実際にデータ分析を行っている部署を訪問する、いわゆるインターンシップを実施しています。一般的なインターンシップでは1日から数日での企業の業務の概要を紹介するものも多いのですが、データサイエンス学部では数週間から1か月程度の長期のインターンシップも実施しています。

今夏は、本学と連携協力関係にある企業2社の協力を得て、1か月のコースと2週間のコースのインターンシップを実施し、データサイエンス学部2年生からそれぞれ2名の学生に参加してもらいました。実施場所はいずれも東京でしたが、受入企業のご厚意で、往復の交通費および宿泊費（実施場所の近くのウイークリーマンション等を利用）を先方に負担いただいています。

これらのコースでは、受入企業においてデータ分析を行っている部署に配属され、日頃のビジネスで利用しているデータを使って、その企業で実際に問題となっている課題を自分たちなりに分析し結果をまとめてプレゼンテーションを行うという、一連の業務の流れを体験してもらいました。また、それと併せて、職場におけるミーティングへの参加や電話応対等、社会人としての経験も積んでもらいました。

なお、本学ではPBL演習として大学の授業でも企業から提供された実際に



修士課程で育成する人材像

のデータによる分析の演習を行っています。が、実際に企業においてデータ分析を行う経験は、やはり一味違ったものがあつたようです。仕事としてやる以上は「分かりませんでした」ではなく「責任をもちて結論を出さなくてはならない」と、疑問点がある場合は受け身ではなく自分から周りに聞くなり自分で調べるなりして主体的に解決しなくてはならないこと、プレゼンに対し様々な角度から厳しい指摘があること等、大学の講義とは違った厳しさもあつたようですが、今回のインターンシップ生は高い意欲をもって課題に取り組んでいた様子でした。大学の講義で教わった回帰分析やクラスター分析、因子分析等の手法

が、実際のビジネスでも役立つことを実感してもらったことも、今回の大きな収穫です。受入先企業からも「データサイエンス学部の学生は基礎がしっかりしている」「意欲が高い」「仕事の飲み込みが早い」と高評価をいただきました。

今後と同様のインターンシップを実施していく予定ですので、学生の皆さんはぜひ積極的に参加していただきたいと思っています。

次に、データサイエンス学部にとつての次の大きなステップである大学院修士課程の開設について述べます。滋賀大学ではデータサイエンス研究科の修士課程を、学部の卒業生を待たずに早期に設置すべく、これまで準備を進めてきました。3月末には文部科学省に設置申請書類を提出し、その後の修正要求などに順次対応して、8月28日に文部科学省より正式な設置認可がおりました。これにより、大学院についても滋賀大学が日本初のデータサイエンス研究科を設立することが正式決定となりました。

データサイエンス学部の卒業生がまだ出ていないうちに修士課程を開設しますので、修士課程に入学すると想定している人材は、すでに企業や自治体でデータサイエンスに業務としてかかわっている社会人が主となります。データサイエンス学部ではすでに多くの企業と連携しており、それらの企業から社内データサイエンス人材の高度化の要望が強く寄せられています。その需要にこたえるために大学院修士課程を開設します。修士課程に入学してくる社会人は、データサイエンス学部

生にとつても良き先輩となることが期待されます。その意味で、学部と大学院が有機的につながり、データサイエンス学部も大学院も同時に活性化されることが期待できます。修士課程においては、データや課題にあわせてモデルを自ら立ててデータサイエンスの一連の過程を独力で遂行することのできる高度な立ちレベルの人材を育成します。前頁の図は修士課程で育成する人材像を表しています。

データサイエンス学部生の多くは学部卒の段階で就職していくものと思いますが、IT系企業など一部の企業では理系修士の採用をメインとしている企業もあり、そのような企業への就職を希望する学生の方は、修士課程への進学も考えていただきたいと思います。

学生活動だより

平成30年度(第1回)滋賀大学学長賞について

6月2日(土)に平成30年度(第1回)滋賀大学学長賞授与式が行われました。

滋賀大学学長賞とは、①「極めて優秀な学業成績を挙げ、高い評価を受けた学生」、②「課外活動や、文化・社会活動などで特に顕著な成果・功績のあった学生・団体」を表彰するものです。

授与式では、学生支援課長より選



受賞を受けた学生の皆さん

考結果の概要について説明があり、位田学長から受賞者に表彰状と楯、副賞が授与されました。いずれも滋賀大学の名誉を大いに高めた功績を称えられました。

各受賞団体等と受賞理由については以下のとおりです。

(彦根キャンパスの学生関係のみ)
経済学部 桐野 葵

ピティナ・ピアノコンペティション及び全国アマチュア学生ピアノコンクール 入賞

DS学部 神田 樹、小西秀明、仲田帆志弥、大江隆史
スポーツデータ解析コンペティション 奨励賞

滋賀大学学長サロンを開催しました

学長サロンは、学生諸君の率直な意見、考え方、要望、情報の共有その他諸々について、位田学長に直接

第53回滋和二大大学学長杯争奪総合定期戦を開催しました

話すことができる場として、原則月1回程度大津キャンパス又は彦根キャンパスで開催するものです。

第1回は6月14日(木)経済学部学生2名、第2回は8月6日(月)経済学部学生3名、第3回は10月15日(月)経済学部学生1名が参加し彦根キャンパスで開催されました。

各回ともに、大学のスローガン、授業カリキュラム及び課外活動等について、学長と意見交換が行われ、学生諸君は緊張しながらも貴重な体験、有意義な時間を過ごすことが出来ました。

6月16日(土)、17日(日)を中心に第53回滋賀大学・和歌山大学二大大学学長杯争奪総合定期戦が開催されました。今年度は本学が当番となり、主に彦根、大津両キャンパス内で熱戦が繰り広げられました。

本定期戦は、昭和41年からスタートし、今年で53回目を数える伝統のある定期戦で、全国に一部の種目の対抗戦はよくありますが、20数種目にわたる総合的な定期戦は珍しいものです。

16日(土)に行われた開会式では、本学の位田学長が式辞、和歌山大学の瀧学長が祝辞を述べられました。その後、両大学団長である本学の喜名副学長、和歌山大学の石塚副学長より激励の言葉が送られました。

1日目から両大学一歩も譲らず近年稀に見る接戦となりました。最終日両大学同点のまま結果は最終種目

である男子弓道部に託されましたが惜しくも敗戦を喫し、総合結果として和歌山大学が4年連続優勝に輝きました。

17日(日)に行われた閉会式では、お互いの健闘を称えあい、来年以降もこの伝統ある定期戦を盛り上げていくこととし、両校の更なる交流を確認しました。

(通算成績は滋賀大学の31勝19敗3引分け)

国際交流

滋賀大学は、世界14の国と地域にある20大学及び1コンソーシアム(大学連合)と全学レベルの学生交流協定(交換留学)を締結しています。この協定に基づき、滋賀大学と相手方大学との間で学部生及び大学院生の派遣、受入れを相互に行う交換留学が行われています。

留学期間は最長1年以内で、留学期間中の授業料は本学にのみ納入し、留学先大学での授業料は免除されます。ただし、語学力不足により語学コース履修を義務づけられた場合、費用負担が発生することがあります。

また、夏季休業期間等を利用して、短期間に目的意識をもって異文化を体験できる海外研修のプログラムも実施しています。

留学体験記

交換留学

ゾイド大学

経済学部経済学科4回生

小沢 萬里

私は、3回生の後期から4回生の前期までの11ヶ月間、オランダのゾイド大学に交換留学しました。

留学を決意する大きなきっかけになったのが、2回生の時に参加した国際交流のプログラムでの経験です。英語でディスカッションを行うこのプログラムで、私は全く自分の意見を言えずとても苦い思いをしました。この経験から留学を通じて、海外の学生とのディスカッションにも耐えうる英語力、そして専門的な知識と思考力を身に付けたいと考え、留学を志しました。

私の留学先の授業は、少人数でのディスカッションがほとんどでした。私はEUや国際政治などの授業



マーストリヒトのシンボル
聖セルファース橋で

主な協定大学一覧

国・地域	大学名
アメリカ	ミシガン州立大学連合
メキシコ	グアナファト大学
韓国	啓明大学
中国	東北財経大学
台湾	国立高雄大学
タイ	チェンマイラジャパット大学
ノルウェー	サウスイーストノルウェー大学
オランダ	ゾイド大学
フランス	西部カトリック大学
オーストラリア	ディーキン大学

過去3年間で留学実績がある大学を掲載

平成29年度 海外研修プログラム参加者

プログラム名	大学名	期間・時期	参加者数
イギリス研修	リーズトリニティ大学	3週間 8月上旬～	18
ミシガン州立大学 夏季語学研修	ミシガン州立大学	4週間 8月下旬～	7
タイ・エコスタディ ツアー	チェンマイ大学ほか	2週間 8月下旬～	6
韓国語・文化研修	啓明大学	3週間 8月上旬～	0
フランス語学・ 文化研修	西部カトリック大学	15日間 9月上旬～	-
オーストラリア研究	ディーキン大学	4週間 2月中旬～	3
メキシコ語学・ 文化研修	グアナファト大学	2週間 2月下旬～	5
現地中国語研修	東北財経大学	3週間 3月上旬～	0

経済学部、DS学部の参加者数を掲載
フランス語学・文化研修は平成30年度から実施

を中心に履修しました。EUなどに関する基礎知識があることを前提として授業が進行するため進度はとて早く、毎回の授業の予習には3・4時間の準備を要しました。準備した内容が授業では一瞬ですぐたり、ディスカッションで挫折を味わったりもしましたが、留学の終盤では対等に意見を交わせるまでになりました。留学前に苦い経験を何度もしたので、自己主張の強いオランダ人学生と対等に意見を交わせたことはとても嬉しかったです。

分を肯定してくれる人を無意識に選んでいた気がします。オランダでは意見の食い違いから何度も口論になりましたが、その度に新たな学びがありました。彼らとの出会いは、私が留学で得た大切な宝物のひとつです。

学校で学ぶ以外に、現場に赴いて自分の目で確かめるということも意識しました。私はEUの仕組みや難民問題に大きな関心を寄せていたので、留学期間中EU本部を何度も視察しました。また留学終了前には、オランダのハーグにあるICCで開催されたユースのシンポジウムに参加し、各国の学生と意見を交わしました。授業だけでなく実際に現場に行ったことで、理解や実感は大きく深まりました。

留学中、日本では得られない多くの学びを得ました。私に留学のチャンスを与え、支えてくださった全て

の方々に感謝しています。ありがとうございます。ありがとうございました。

短期海外研修

フランス語学・文化研修
(西部カトリック大学)
経済学部社会システム学科3回生

河野美咲

フランス語学・文化研修を経て体験したことを、研修先のアンジェやホームステイ、語学学校の3つの観点から述べたいと思います。

まず、研修先のアンジェは、すぐく穏やかで居心地のいいところでした。パリでは、銃を持った兵士が巡回していて驚きましたが、アンジェではそのようなことはなく、外は20時まで明るいので安心して過ごせる街でした。とはいえ、それほど田舎でもなく、アンジェの中心部にはたくさんのお店が並んでおり、週末には多くの人で賑わっていました。

私のホームステイ先は5人家族で、とても仲のいい家族でした。英語が話せる家庭だったため、どうしても分からない時は英語でコミュニケーションをとることができ、あまり困ることはありませんでしたが、フランス語の聴き取りや発音は難しく、大変でした。しかし、ホストファミリーは、私が聴き取れるようにゆっくりと話をしてくれたため、なんとか理解はできました。

ホームステイでフランス語に触れる機会がたくさんありました。夕食時に1日の出来事を聞いてくれて、私の拙いフランス語を気長に聴き取

ろうとしてくれるので、私も間違いを恐れることなくフランス語を話すことができました。そして、日常で使う単語や文法の間違い、発音の違いも指摘してくれるので、とても勉強になりました。また、フランスの家庭料理や暮らしぶりを体験できただけでなく、アンジェの街やフランスの音楽について教えてもらい、日本との違いについて話し合うこともありました。フランス語で説明することは難しかったのですが、とても楽しかったです。

語学学校ではクラスは語学レベルに分けられるので、授業は自分のレベルにあっている、苦痛に感じることがなく、楽しく授業を受けることができました。授業は、言語・表現・聴き取りの3つに分けられ、言語の時間に学習した単語や表現を、表現や聴き取りの授業で実際に使うため、その日に学習した単語や表現は自然と身につくようになっていました。そのお陰で、効率良く、楽し



ホストファミリーと

んでフランス語を学ぶことができませんでした。特に言語の授業では、細かい違いまで教えてくれるので勉強になりました。先生も他の生徒もフレンドリーで、授業はわかりやすく、非常に良い学校でした。また、クラスには様々な国籍の人がいて、フランス語がほとんどできない人もいましたが、そんなことは気にせず積極的に発言している姿に、刺激を受けました。

不安だらけで挑んだ語学・文化研修でしたが、そんな不安とは裏腹に、非常に有意義な時間を過ごすことができ、フランスやフランス語がさらに好きになりました。

ゼミナール紹介

通常ゼミナール、略して「ゼミ」と呼んでいる授業は、経済学部は「専門演習ⅠⅡⅢⅣ」、データサイエンス学部は「実践価値創造演習Ⅰ・Ⅱ」「上級実践価値創造演習Ⅰ・Ⅱ」といった一連の4つの授業科目を意味し、これらの科目は、2回生の後半に各学生の選択希望に基づき、受講クラスが決定されます。3回生春学期から授業が始まり、以後継続して4回生秋学期までの4セメスター連続して履修することになります。

ゼミは、2年間、同一のクラスで同一の教員が担当し、経済学部では、担当教員の専門分野の学問的内容について、受講生の学習・研究を指導することになっています。データサイエンス学部では、企業等と連携し、課題解決や価値創造を試みるために収集したデータのチェックを行い、データを分析し、得られた結果を考察し、問題解決を提案することを目的としています。

柴田ゼミナール

経済学部准教授 柴田 淳郎

柴田ゼミは「比較経営論」を専門とするゼミです。比較経営論は様々な国の経営システムの違いを明らかにすることを目的としています。私のゼミでは、日本企業と米国の経営システムの違いを学習しています。日本の経営と言えば、終身雇



名古屋市立大学との合同ゼミ打ち上げ

用、年功序列、企業別労働組合という三種の神器と呼ばれた高度成長期の日本企業の世界的躍進を支えた経営システムとして有名です。バブル経済崩壊以降、このようなシステムの有効性は喪失し、崩壊したという意見もありますが、良しにつけ、悪しにつけ、現行の日本企業の多くの行動を規定しているのです。このことは、アメリカやイギリスの企業と経営システムを比較すれば、一目瞭然なのです。

柴田ゼミでは以上のような経営システムの比較を学ぶだけではありません。学業以外にも様々な課外活動にも取り組んでいます。例えば、彦根市の地場産業である彦根仏壇と一緒に「七曲がりフェスタ」と呼ばれる伝統工芸の周知を目的としたお祭りの企画・運営に関わったり、彦根市を代表する老舗和菓子メーカー「いと重菓舗」と共同で、若者を対象とした新商品『いとかさね』を開発したり、また今年が多賀町と「NEXCO 中日本」と共同で、地域の価値を高めるS・A・P・Aのあり方を考えるプロジェクトを実施する計画となっています。

また、以上のような地域との連携を中心とした課外活動だけでなく、名古屋市立大学との合同ゼミ、インター大会への出業、夏合宿、OB会の開催等、先輩や後輩だけでなく、柴田ゼミを卒業したOBとの関係を深める様々なイベントも準備されています。これらのイベントではBBQを行います。柴田ゼミは時にBBQゼミと呼ばれることがあります。それはこれら交流イベントでBBQを行うことが多いからです。飲み会では2時間程度の交流しかできませんが、BBQなら半日単位での交流が可能です。春の新入生歓迎のBBQではOBも含め最大60名が参加することもあります。これらの交流会は柴田ゼミの円滑な人間関係を支えるだけでなく、OBや先輩からの就活指導にも存分に活かされています。

市川 自主ゼミナール

データサイエンス学部教授

市川 治

現在、データサイエンス学部では1年生と2年生約百名ずつが、勉学に励んでいます。新しくできた学部であるということも十分に理解して入学してきた学生たちばかりですから、いろいろなことに挑戦して自分の可能性を試してみようという気概にあふれているように見えます。企業

業のインテリゲン、スポーツ分析などのコンペティション、そしてここで紹介する自主ゼミ、それら全てが卒業の単位に関係ないにも関わらず、多くの学生が積極的に参加しています。これは素晴らしいことです。

自主ゼミについて説明しましょう。データサイエンス学部のカリキュラムでは3年生からゼミ配属が行われ、そこでテーマに特化した教育が行われます。現在は、1年生と2年生しか在籍していませんので、そういった通常のゼミはありません。そこで、学年にかかわらず誰でも希望すれば参加できるゼミ(通称自主ゼミ)が学期ごとに開催されています。今年度の春学期も、「機械学習」「データ分析」「統計」「画像処理」「ビッグデータ」「対話ロボット」「情報処理」など学生が興味を持ちそうな多数のゼミが用意されました。

春学期・DS学部自主ゼミ開講予定

文字通り、先生と学生が得意な分野に精通しているゼミで、参加の義務はありません。単位認定もありません。卒業論文に自分の自主ゼミをテーマにする予定です。

開講口数は足りなくなってきますので、詳細は先生に聞いてください。

開講希望者は必ず2日前までに先生に申し込み、先生に連絡をとってください。

 市川 治 データサイエンス学部教授	 高橋 誠 データサイエンス学部准教授	 山本 隆 データサイエンス学部准教授
 佐藤 健 データサイエンス学部准教授	 田中 浩 データサイエンス学部准教授	 中村 誠 データサイエンス学部准教授
 伊藤 隆 データサイエンス学部准教授	 山田 浩 データサイエンス学部准教授	 小林 誠 データサイエンス学部准教授
 鈴木 隆 データサイエンス学部准教授	 渡辺 浩 データサイエンス学部准教授	 木村 誠 データサイエンス学部准教授

春学期・DS学部自主ゼミ開講告知

私が担当したのは「対話ロボットの作成」です。「滋賀大学に学生寮はありますか?」とか「データサイエンス学部の勉強はバイトと両立できますか?」といった口頭の質問に合成音声で回答できるロボットを作成することが目標です。これを夏のオープンキャンパスの時に展示して、訪問してくれた受験生に使ってもらおうというシナリオです。

最近、こういった話し言葉で質問や命令ができる機械が急速に普及しています。Amazon EchoやGoogle Homeといったスマートスピーカーが代表格です。機械は人間が話した声を音声認識によりテキスト(文字)に変換し、そのテキストの意図を解釈し、応答します。ときどき気の利いた応答をすることがあって、人工知能の一つの形態として紹介されていることもあります。

この人工知能のように見える不思議なもの、これを不思議なものだと思わずに、これを使って、仕組みをちゃんと理解する。そして使えるよ



オープンキャンパスでのデモの様子



うにする。それが、この自主ゼミの1つの目的です。なかでも、「テキストの意図を解釈すること」という部分は何かとても難しいことのように感じられるかも知れませんが、実はこの部分、データサイエンスが活躍します。すなわち、「こういう質問をしたい時、人はこう言う」というデータをたくさん集めておいて、それを機械に学習させます。日本語は語順が自由で、「アノー」などの言い淀みも豊富です。ですので、実行時に受け取るテキストが事前に学習させたテキストと完全に一致することは、なかなかありません。それでも、良く学習させた機械は入力されたテキストを高い精度で、自分の知っている質問へ分類してくれます。これが「テキストの意図を解釈する」ということの本質です。

今回の自主ゼミでは、この機械学習と音声認識にIBM Watsonを使い、ロボットにソフトバンクのPepperを使いました。知能にあたる部分をクラウド上に持たせることは、これからの重要なトレンドですので、学生たちの良い体験になったことを期待しています。

平成30年度滋賀大学経済学部・データサイエンス学部後援会資格取得等報奨制度給付一覧
(平成29年4月から平成30年3月末日までの受理分)

分類	サポート対象事項	基準	報奨額	給付件数	給付者氏名(敬称略) ○数字は回生(申請時)
資格・認定試験	税理士試験	①会計学に属する科目の中から、いずれか1科目合格者	80,000	2	岡村すみれ(院②) 堀田優人(学部④)
		②税法に属する科目の中から、いずれか1科目合格者	50,000		
	公認会計士試験	「短答式試験」合格者	100,000	2	
	日商簿記検定試験	「一級」合格者	50,000	1	梶山純平(学部③)
	証券アナリスト試験	「第1次レベル試験」合格者	30,000	8	原田夢乃(学部④) 河合信治(学部③) 鈴木歩夢(学部②) 長尾勇太郎(学部②) 野崎裕太(学部③) 杉山菜々(学部④) 菅 裕真(学部②) 他1名
		「第2次レベル試験」合格者	40,000	4	長谷川拓実(学部③) 内藤樹(学部③) 久保木尚人(学部③) 小澤翔伍(学部③)
	データベーススペシャリスト試験	合格者	50,000		
品質管理検定	「一級」合格者	50,000			
統計検定「一級」	「統計数理」、「統計応用」のいずれか1科目合格者	50,000	2	西村僚介(学部④) 関谷侃宏(学部③)	
語学試験	TOEIC(公開テスト)	800点以上	30,000	30	上原竜弥(学部③) 梅田悠平(学部②) 尾本紘基(学部④) 鈴木蘭丸(学部④) 網野侑希(学部②) 井手康喜(学部②) 八倉奈央子(学部②) 鈴木歩夢(学部②) 堀祐樹(学部③) 平田祐樹(学部②) 宮崎駿吾(学部②) 山口和樹(学部③) 堅田一弥(学部③) 片岡花野(学部④) 小森茉莉(学部③) 川北達士(学部④) 奥山康平(学部④) 上田航平(学部④) 永井洵気(学部③) 田中俊光(学部③) 松尾静香(学部④) 山本悠貴(学部④) 長村真帆(学部③) 高村紗也加(学部③) 垣内夏帆(学部③) 他5名
留学	本学交換留学制度に基づく海外留学	アジア圏地域	40,000	3	田村元宜(学部③) 村上千瑛(学部③) 他1名
		その他	80,000	5	陳雪寧(学部④) 長村真帆(学部③) 他3名
その他	ネットワークスペシャリスト試験 合格		50,000	1	安田竜輝(学部①)
	中小企業診断士第2次試験 合格		50,000	1	奥野誠也(学部④)
	NHK全国大学放送コンテスト 映像CM部門 第1位		50,000	1	飯田いおり(学部③)
	ウィンドサーフィンの世界選手権 Techno 239 Plus World Championship に出場		70,000	1	吹田直紀(学部④)

注) 給付者氏名については、氏名を公表することの承諾を得た学生の方のみ記載しています。

資格取得等報奨制度

「後援会資格取得等報奨制度」は、スポーツ・文化活動、勉学等で顕著な功績を残した個人、若しくは団体を報奨することにより、学生の団体の勉学等を支援し、資質の向上

に資することを目的として、平成26年10月に創設され、その後、データサイエンス学部の設置に伴い、対象試験等の一部を改正しました。

今年度(平成29年4月から平成30年3月受理分)は、左表の通り、61件に対して給付されました。学生からはステップアップのための資金にしたいとの頼もしい声が聴かれ、今後も、多くの学生諸君から応募していただけるよう願っています。

また、学生諸君には、別途、学内においてお知らせしています。保護者の皆さまにおかれましても、ご覧いただいた上で、お子様にお伝えいただきたく存じます。

今後、より良き制度に改善して行きたいと考えておりますので、会員の皆さまからも是非ともご意見等お寄せいただければ幸いです。

報奨金給付者の声

『日商簿記検定試験 一級合格』
『公認会計士試験 短答式試験合格』

経済学部会計情報学科4回生

梶山 純平



私は、昨年11月に実施された日商簿記検定一級に合格し、また、この原稿執筆段階で、公認会計士の簿記と会計学の範囲は大部分で被っているため、本来の私の目標は公認会計士試験合格なのですが、その過程で日商簿記一級を取得することが出来ました。

合格出来たのは、簿記会計の勉強会サークルでこの分野を学ぶことの楽しさを感じさせて貰えたこと、専門学校との関係で辞めざるを得なかった部活の皆が後押ししてくれたこと、そして可児島先生のゼミで会計学を深く学べたからだと思えます。勉強する上で苦労した点は、広範な試験範囲のため知識のインプットとアウトプットが思うようにいかなかったことです。専門学校のカリキュラムについていくことが厳し

く、成績も伸びずにモチベーション低下という負の連鎖に陥りました。勉強計画の見直しや勉強環境の改善等により、なんとか持ち直すことが出来ました。

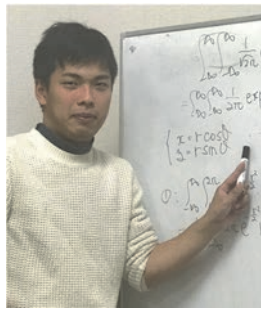
大学に入ってから始めた簿記と会計学ですが、躓きながらもここまで来ることが出来ました。大学4年間には皆さんの夢を実現するための第一歩を踏み出すためには十分な期間だと思えます。その中で簿記と会計学を学ぶという選択肢を入れて貰えれば幸いです。

梶山さんの公認会計士試験短答式試験合格は、申請時期の関係で前頁の給付件数には入っていません。

『統計検定 一級合格』

経済学部情報管理学科4回生

関谷 侃宏



私は昨年の11月に統計検定一級に合格しました。合格にはさまざまな要因がありましたが、一番大事だったのは統計学への興味でした。2回生のときに受講した統計学の講義は僕にとって人生を変えてしまふほどに魅力的で、僕をどんどん統計学の世界へと引き込んでいきました。なので統計検定の勉強は辛さやしんどさよりも楽しさが上回って

ました。元々好きだった人は、出会った頃を思い出してみてください。そうすればきっと不思議な情熱が湧いてきて、もう少し頑張れるかと思いません。難しい人は好きな人の顔と資格を繋げるイメージをもつといいかもしれません。実際に僕はちよつと疲れると、最初に統計学を学んだ先生の顔を思い出していました。

世間からの統計学の大変な需要もあり滋賀大学は日本初のデータサイエンス学部を設置し、統計教育の最前線にあります。最高の環境との運命的な出会いに感謝することと、統計検定一級の合格は通過点でしかないと思えることを忘れずに、これからの研究活動により一層励みたいと思います。

『TOEICテスト 875点』

経済学部企業経営学科4回生

垣内 夏帆

私は大学に入学してからTOEICスコア800点を目標に学習を続け、今年1月に、875点を取得しました。

TOEICに向けた勉強を始めるきっかけとなったのは、大学に入学してすぐに受験したTOEIC-IPの試験でした。お恥ずかしながら、それまでTOEICのことを何も知らなかったので

すが、「大学生のうちに英語力を高めたい」と漠然と考えていたこともあり、自分の現状をスコアとして可視化できる、この資格に興味を持ち、学習を始めました。

私が実践した学習方法はシンプルで、単語帳を読んで語彙力をつけ、なるべく多くの問題を解くというものです。大学ではTOEIC向けの参考書を貸し出している施設があり、大いに活用させていただきました。また、TOEICはビジネス英語に重点を置いている試験であるので、英語のプレゼンを聞いたたり、英字新聞を読むといったことにも挑戦し、目標達成に至りました。

TOEICでの目標を達成したため、今後はさらに、英語のスピーキング能力を高めるための努力をしていきたいと考えております。

最後に、語学の能力は自分の気持ちと工夫次第で可能性が広がるものだと思います。そのため、今後語学の学習を志す方には、自分が楽しめる勉強方法を見つけて、頑張っていたいただきたいです。

編集後記

後援会だよりは次のURLでもご覧いただけます。

<https://www.econ.shiga-u.ac.jp/supporters.html>

会員の皆様の記事についての感想や要望、後援会や経済学部DS学部に対する要望、ご意見等を郵送又はFAXでお聞かせください。

TEL: 522-8522 彦根市馬場一丁目1番1号
FAX: 07496271162